



平成29年6月22日

文科省「新時代の教育のための国際協働プログラム」に 中国四国九州で唯一採択

岡山大学は5月31日、文部科学省が公募した平成29年度「新時代の教育のための国際協働プログラム」に採択されました。

本事業は、平成28年5月開催のG7倉敷教育大臣会合で採択された「倉敷宣言」において、G7各国間での教育に関する理念・課題の共有や国際協働の重要性が確認されたことを踏まえ、各国の豊かな経験を相互に学び合い、教育分野におけるG7各国間の関係強化を図ることにより、多様化する教育課題に対する教育実践の改善に資するため、実施するものです。全国では本学のほか、福島大学、筑波大学、大阪教育大学が採択されています。

本学は事業名称を「学校と社会の連携に基づくワークショップ型多文化共生教育プログラムの日米協働開発事業—新時代の教育スタイルと多文化社会コーディネーターとしての教員像の追求—」と設定しました。グローバル人材の育成を県政の重要課題と位置付け、長期派遣の体制を組んでいる岡山県教育委員会と、昨年度のG7教育大臣会合の開催地であった倉敷市教育委員会と国際協働岡山コンソーシアムを形成。教育分野におけるG7各国間の関係強化を一層促し、地域間、学校間はもちろんのこと、教員個人間でも国際協働を促進するために、現職教員を海外に派遣し現地の学校や教員をはじめとする教育関係者と交流を行い、グローバル人材の育成を目指す新しい日本の教育の推進を目指します。

<主な取組>

- I. 多文化共生社会の構築を視点とする教育の制度、内容、方法に関する日米の比較調査・研究
- II. 多文化共生教育プログラムの日米共同開発・実践・改善を目指した長期（6カ月）海外教員交流プログラム
- III. 日米の研究交流による多文化共生教育プログラム開発を目指した短期（5週間）海外教員交流プログラム
- IV. 事業成果報告・普及のための多文化共生を目指した学校教育シンポジウムの国内各地での開催

<成果を活かした将来の展望>

- ①「グローバル人材の育成」の理念をふまえて、多文化社会コーディネーターとしての教員と岡山大学の研究者らによって構成される多文化共生教育研究グループの発足等、多文化共生社会の構築に向けた学校改革を積極的に推進する持続的な体制作りを行います。
- ②倉敷宣言の理念の実現状況を検証するための国際会議をG7会議にあわせて企画するなどして、倉敷宣言の価値が長く受け継がれ、各国の教育改革に活かされるように努めます。

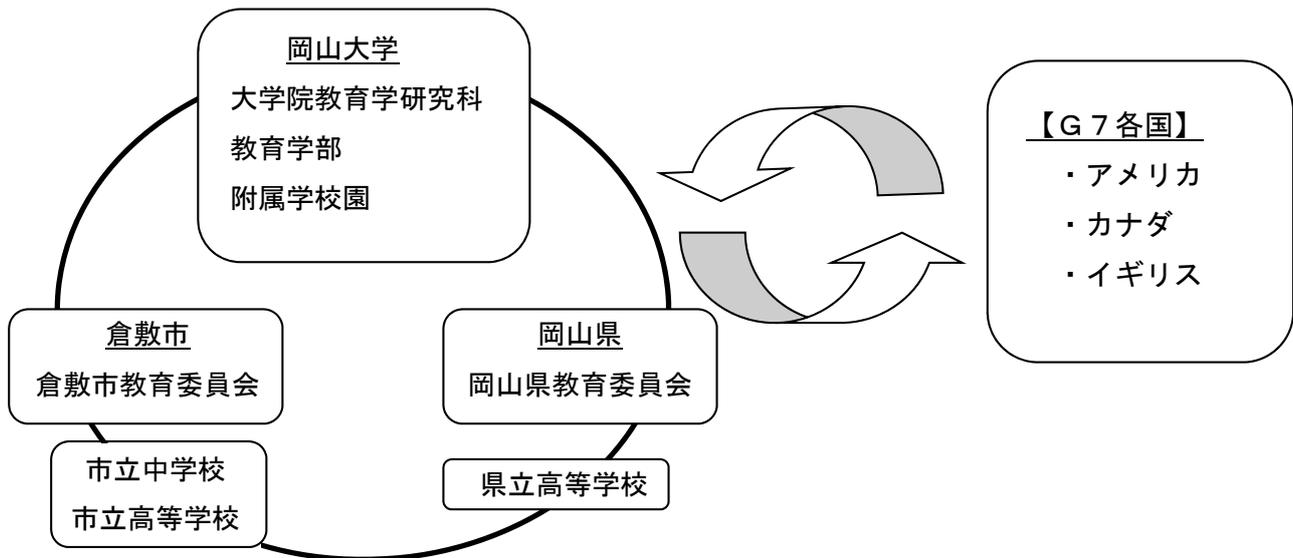


PRESS RELEASE

<事業組織>

岡山大学、岡山県教育委員会、倉敷市教育委員会が連携をしてコンソーシアムを形成

《国際協働岡山コンソーシアム》



※主な取組の具体的な内容については別添資料をご覧ください。

<お問い合わせ>

岡山大学大学院教育学研究科
教授 桑原 敏典
(電話番号) 086-251-7736